

令和 年 月 日

中国運輸局長 殿

三次市地域公共交通会議
会長（副市長）細美 健

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価の
報告について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（平成23年4月1日国総計第5号、
国鉄財第4号、国鉄業第4号、国自旅第20号、国海内第8号、国空環第5号）
に基づき、令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価を実施したの
で、事業評価関係書類を送付します。

【問い合わせ先】

〒728-8501

広島県三次市十日市中二丁目8番1号

（担当）地域振興部 定住対策・暮らし支援課

（電話）0824-62-6129

（FAX）0824-62-6235

（E-mail）teijyu@city.miyoshi.lg.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:三次市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

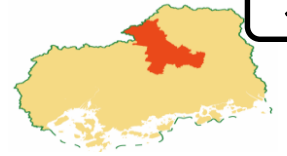
①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
備北交通株式会社	三次町循環 南畑敷町循環	運行事業者と協議のもと、観光利用者の増加を図るため、休日ダイヤの一部経路変更を行った。また、交通観光センター等でチラシの配布を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1循環あたりの利用者を5.4人以上としていたが、実績は5.5人であった。	運行の周知及び利用啓発を図るため、広報活動を積極的に実施する。
備北交通株式会社	赤名線	運行事業者と協議のもと、高速バスとの乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの利用者を3.6人以上としていたが、実績は4.1人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討する。
備北交通株式会社	下高野線	通学利用者の利便性向上のため、平日ダイヤの一部経路変更を検討した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.7人以上としていたが、実績は5.5人であった。	関係自治体や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。
備北交通株式会社	作木線①	乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.3人以上としていたが、実績は4.8人であった。	関係自治体や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。
備北交通株式会社	作木線②③	乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの利用者を3.4人以上としていたが、実績は3.6人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討する。
有限会社君田交通	川の駅三次線	トンネル開通に伴う経路変更により、所要時間を短縮した。また、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を1.6人以上としていたが、実績は1.3人であった。	地域や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。
NPO法人元気むらさきぎ	作木町上地区 作木町中地区 作木町下地区	運行主体と連携し、町内の広報誌等を用いてPRを行った。また、IT技術を用いた運行管理システム及び予約アプリの活用に係る実証実験事業を継続して行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1月あたりの利用者を47人以上としていたが、実績は51人であった。	地域や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編等を検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	三次市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>三次市は広島県北部の山間地域に位置し、面積は778.14km²で広島県の約9.2%を占めており、人口は令和5年12月1日現在で48,813人となっている。</p> <p>近年では人口減少・高齢化が進展しており、平成27年の高齢化率は35.0%、また15歳未満の年少人口比率は12.5%となっている。こうした状況の中、誰にとっても安心して暮らせる地域づくりのためには、来訪者を含めた、誰もが安心して移動することができる地域公共交通システムの構築が必要不可欠である。その一環として、中でも、公共交通の主たる利用目的である通勤・通学、通院、買い物の利用を促進するため、病院や高校など市中心部への移動手段を確保し、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統(デマンド型・路線型)を組み合わせることで、生活交通網の構築を進めているところである。</p>

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 三次市地域公共交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



三次市の概要

- ・平成16年4月に1市4町3村が合併
- ・人口 50,681人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 778.14km²

三次市地域公共交通会議の構成員

三次市 広島県 中国運輸局 三次警察署 学識経験者
住民又は利用者の代表 私鉄中国地方労組備北支部
備北交通(株) 十番交通(有) 三次みどりタクシー(株)
西日本旅客鉄道(株)広島支社

概 要

三次市は平成16年に旧三次市と双三郡、甲奴郡甲奴町が合併し広域な市となり、広域移動を中心として主要拠点間の移動を路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持確保が困難な状況が生じている。一方で、合併による生活圈域の広域化等により市民の移動ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効果的・効率的な公共交通サービスの提供が必要である。持続可能な地域内交通を確保維持する取組として、市街地を循環するバス「くるるん」、区域運行の公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」の運行を実施している。また広域移動として、赤名線、下高野線の運行を実施しているほか、平成30年4月からは、三江線代替交通である作木線と川の駅三次線の運行を実施している。

協議会の主な取り組み

- ・市街地循環バスの整備、運行、改善
- ・地域内生活交通の再編
- ・路線バスの運行、再編
- ・三次市相乗りタクシー事業の推進
- ・公共交通の利用促進策の推進(バスの乗り方教室等)

等交通計画事業の実施、達成状況の評価・改善

- ・公共交通空白地域における有償運送の運営補助

協議会における検討

交通会議の開催状況 計4回開催

- ▶第1回(5月29日)
三次市地域公共交通会議役員について
中国バス甲奴・三次線の廃止について
中国バス甲山・三次線の増便及びダイヤ改正について
三次市民バス甲奴町線の再編について
備北交通「こども乗り放題バス」の販売について協議
- ▶第2回(6月29日) ※書面協議
令和6~7年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
安芸高田市運営有償旅客運送の三次市への乗り入れ継続について協議
- ▶第3回(8月28日)
三次市地域公共交通会議委員について
「バス&レールどっちも割きっぷ」の販売延長について協議
- ▶第4回(12月22日)
令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画事業評価について協議

定量的な目標・効果

- 市街地循環バスくるん：（目標）1循環あたりの利用者数 5.4人以上（目標の根拠 R3.4～R4.3の利用者平均 5.3人）
（効果）市街地での通院や買い物等の移動支援
- 赤名線：（目標）1便あたりの利用者数 3.6人以上（目標の根拠 R3.4～R4.3の利用者平均 3.5人）
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進
- 下高野線：（目標）1便あたりの利用者数 5.7人以上（目標の根拠 R3.4～R4.3の利用者平均 5.6人）
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進
- 作木線：（目標）1便あたりの利用者数 作木線①5.3人以上 / 作木線②③3.4人以上（目標の根拠 R3.4～R4.3の利用者平均①5.2人、②③3.3人）
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進
- 川の駅三次線：（目標）1便あたりの利用者数 1.6人以上（目標の根拠 R3.4～R4.3の利用者平均 1.5人）
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進
- さくぎニコニコ便：（目標）1月あたりの利用者数を47人以上（目標の根拠 R3.4～R4.3の利用者平均 46.8人）
（効果）三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動支援

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

- 市街地循環バスくるん
観光利用者の増加を図るため、休日ダイヤの一部経路変更を行った。
- 赤名線
高速バスとの乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を行った。
- 下高野線
通学利用者の利便性向上のため、平日ダイヤの一部経路変更を検討した。
- 作木線
乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。
- 川の駅三次線
トンネル開通に伴う経路変更により、所要時間を短縮した。
- さくぎニコニコ便
運行主体と連携し、作木町内の広報誌等を用いて積極的に運行のPRを行った。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

- ・バスへの関心を高める取組を引き続き実施した。

実施した利用促進策

- ・駅前施設を中心にチラシ等を配布し、バス路線の周知に努め、利用を呼び掛けた。
- ・運行事業者の協力により、「乗り放題パス」及び「ちょこっとパス」の発売による利用促進及びモビリティマネジメントを実施した。
- ・運行主体と連携し、住民向けの広報紙等を用いて積極的な運行のPRを行い利用を呼び掛けた。

地域住民の意見の反映

- ・各地域の住民自治組織単位で生活交通について協議を行い、ニーズや現状の把握による運行内容の見直しや利用促進を進めていくことを目的とした、地域内生活交通検討会の設立を随時行っている。
（令和5年12月末現在、6か所で設立済み）
- ・作木町及び布野町の地域内生活交通検討会において提言された意見を参考に、バスのルートやダイヤの改善を行うことで、利便性向上を図った。

事業実施の適切性

すべての路線(区域)において、運行事業者並びに関係団体協力のもと、計画どおり事業は適切に実施された。

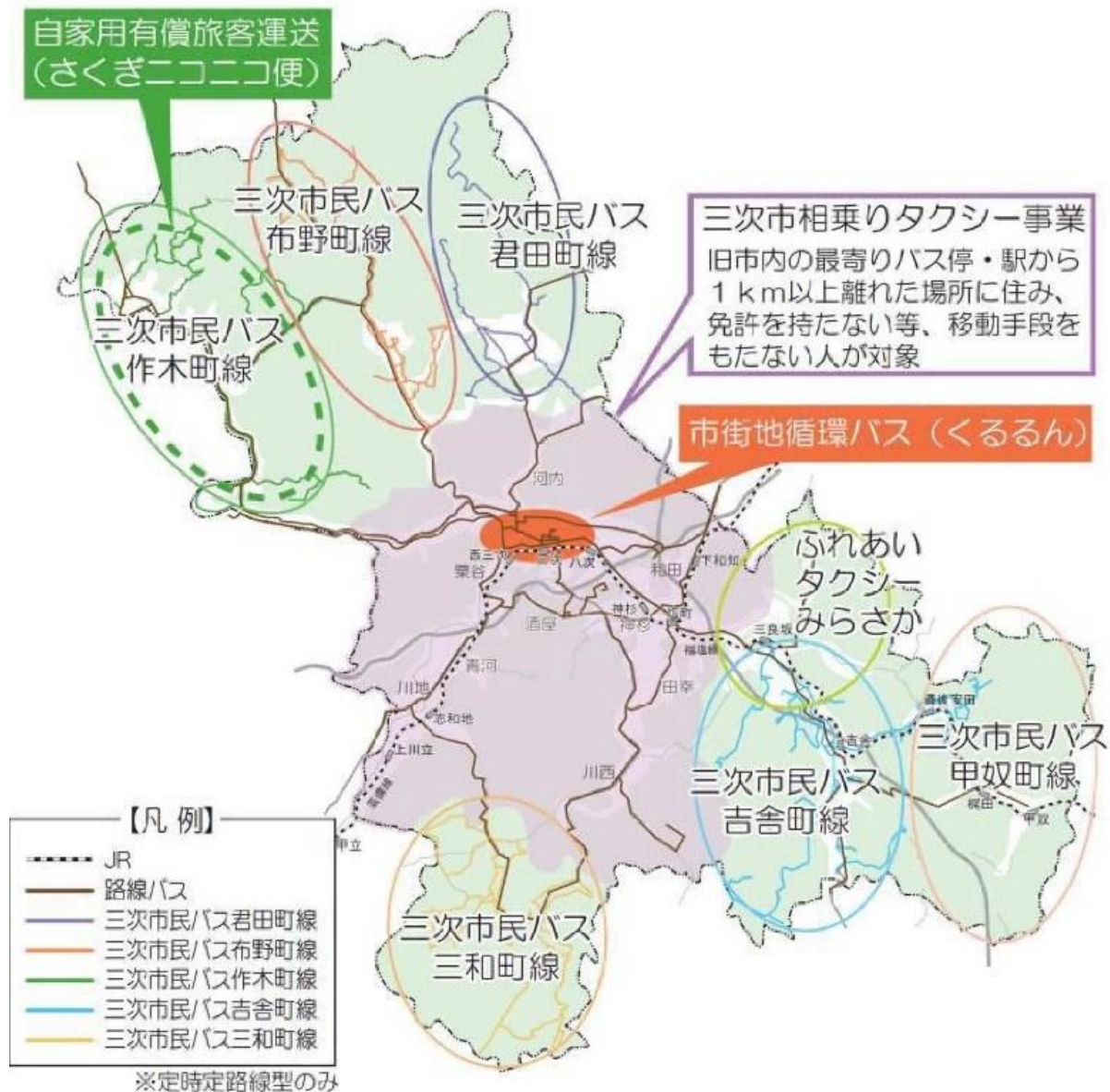
目標・効果達成状況

- 市街地循環バスくるん：(目標)1循環あたり5.5人で、目標(5.4人以上)を達成した。
(効果)市街地での通院や買い物等の移動手段を確保維持することができた。
- 赤名線：(目標)1便当たりの利用者数4.1人で、目標(3.6人以上)を達成した。
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 下高野線：(目標)1便当たりの利用者数は5.5人で、目標(5.7人以上)を下回った。
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 作木線：(目標)1便当たりの利用者数は作木線①は4.8人、②③は3.6人で、①は目標(5.3人以上)を下回り、②③は目標(3.4人以上)を達成した。
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 川の駅三次線：(目標)1便当たりの利用者数は1.3人で、目標1.6人以上を下回った。
(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- さくぎニコニコ便：(目標)1月あたりの利用者数が51人で、目標(47人以上)を達成した。
(効果)三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動支援を確保できた。

事業の今後の改善点

- 市街地循環バスくるん：運行の周知及び利用啓発を図るため、広報活動を積極的に実施する。
- 赤名線：引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討する。
- 下高野線：関係自治体や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。
- 作木線：関係自治体や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。
- 川の駅三次線：地域や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。
- さくぎニコニコ便：地域や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編等を検討する。




交通体系図 別紙

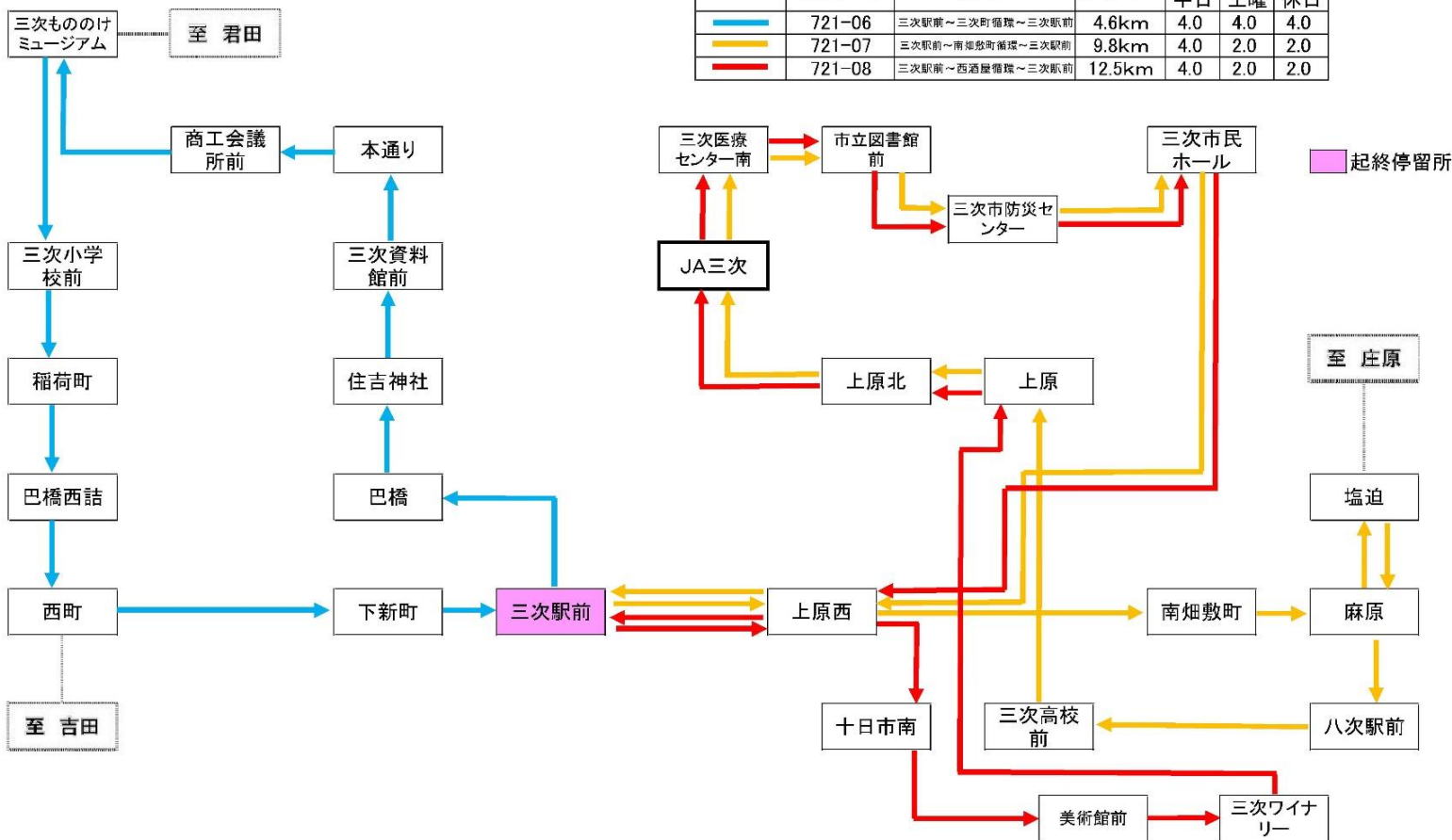


運行系統図 別紙

系統名 三次町循環, 南畑敷町循環
 運行形態 4条路線・乗合バス型(定期)
 運行日・便数 1/1, 1/2を除く毎日運行 1日8便
 運賃 一乗車200円(高校生まで100円)

運行系統図 三次市街地循環バス くるるん

	系統番号	系統名	運行キロ	運行回数		
				平日	土曜	休日
	721-06	三次駅前～三次町循環～三次駅前	4.6km	4.0	4.0	4.0
	721-07	三次駅前～南畑敷町循環～三次駅前	9.8km	4.0	2.0	2.0
	721-08	三次駅前～西酒屋循環～三次駅前	12.5km	4.0	2.0	2.0

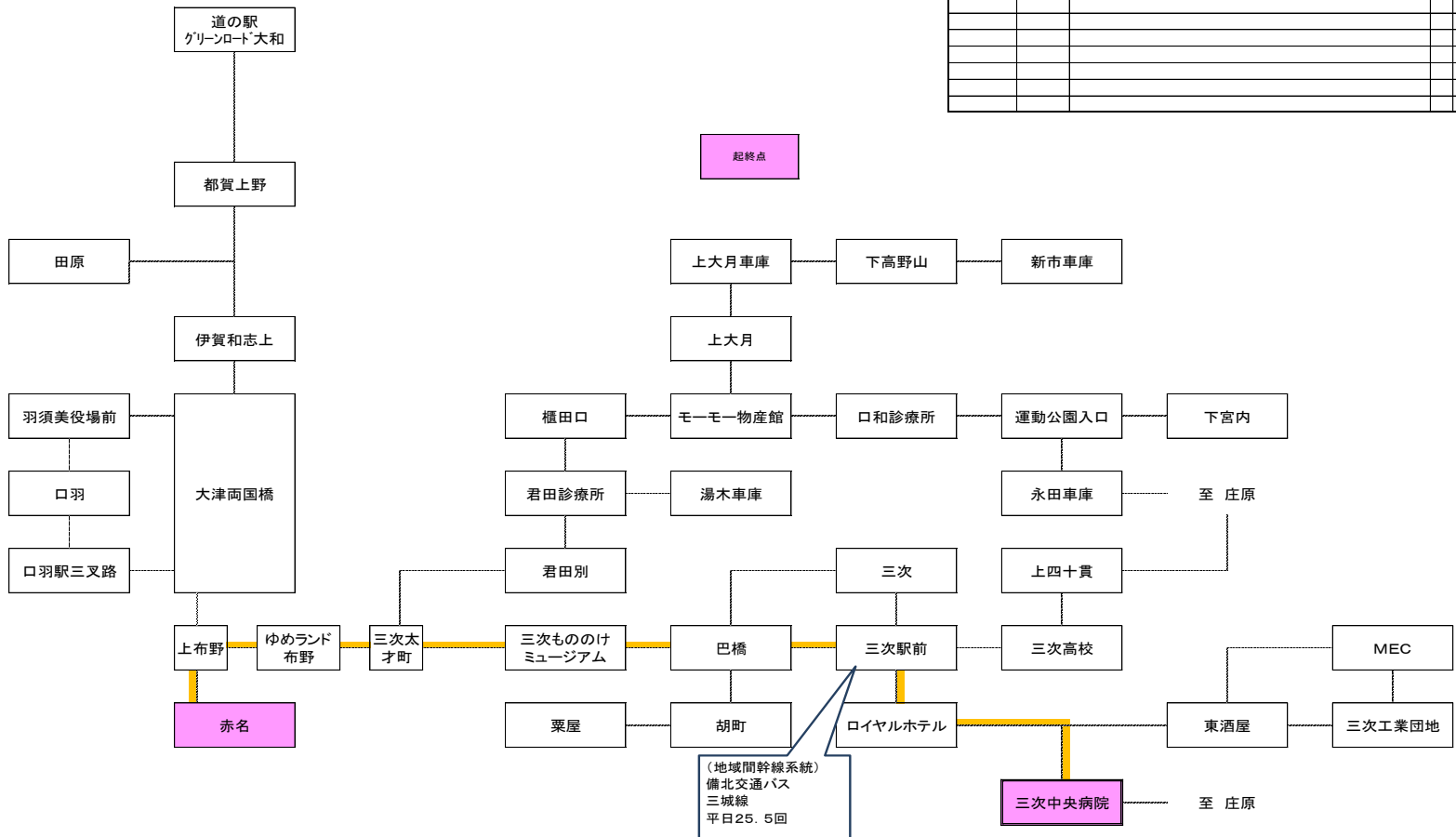


運行系統図 別紙

系統名 赤名線
 運行形態 4 条路線, 乗合バス型 (定期)
 運行日・便数 1/1, 1/2を除く毎日運行 1日4便
 運賃 対キロ区間制 (160円~1220円)

運行系統図(赤名線) H31.4.26~

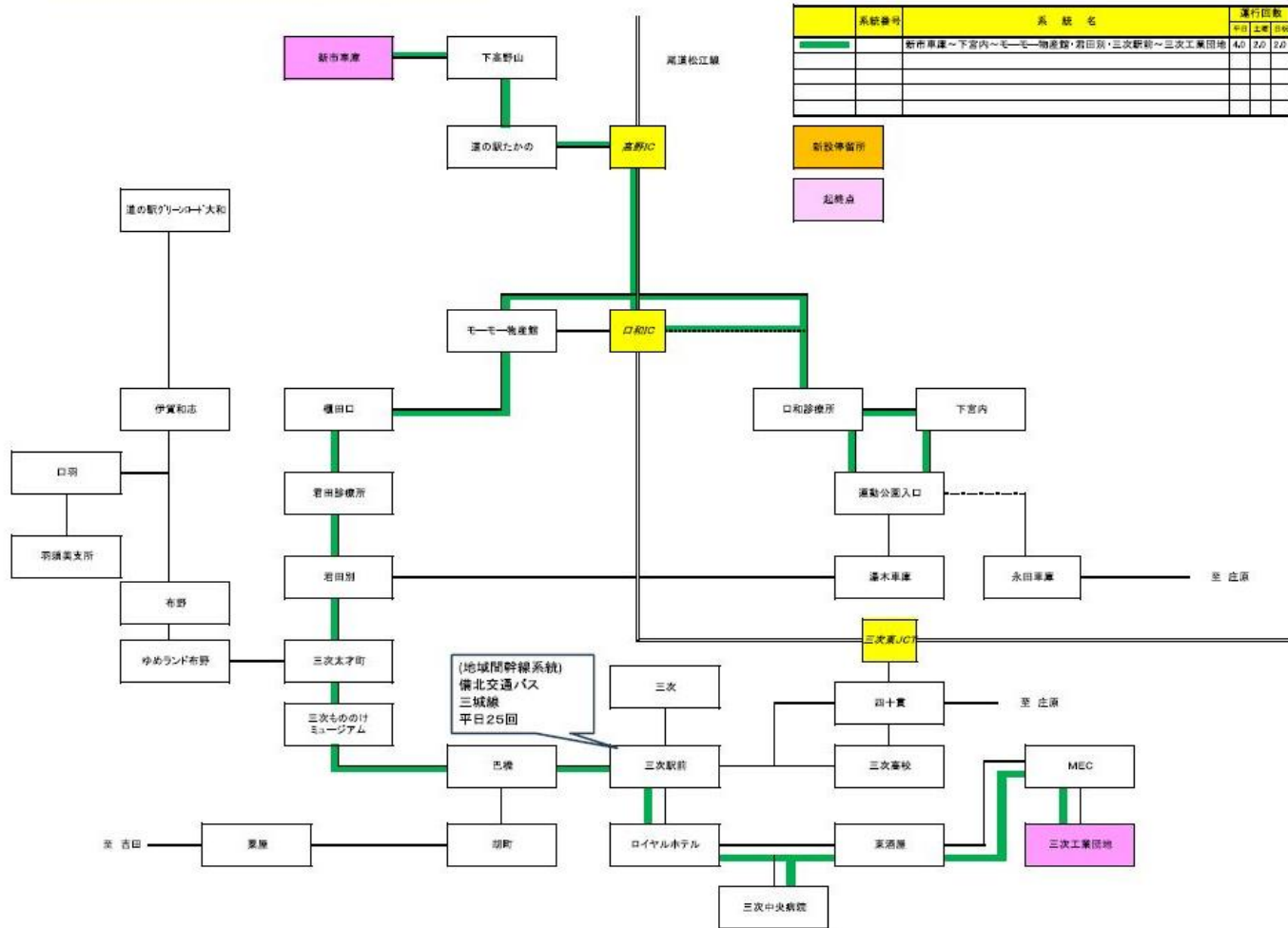
系統番号	系統名	運行回数		
		平日	土曜	日祝
900-53	赤名~ゆめランド布野・三次駅前~三次中央病院	4.0	4.0	4.0



運行系統図 別紙

系統名 下高野線
運行形態 4条路線・乗合バス型（定期）
運行日・便数 1/1, 1/2を除く毎日運行 月～金：4便 土日祝：2便
運賃 対キロ区間制（160円～1580円）

運行系統図(下高野線) R3.4.1現在



系統番号	系統名	運行回数		
		平日	土曜	日祝
	新市車庫～下宮内～モーター物産館・君田駅・三次駅前～三次工業団地	4.0	2.0	2.0

(地域間幹線系統)
 備北交通バス
 三城線
 平日25回

※ 古田

運行系統図 別紙

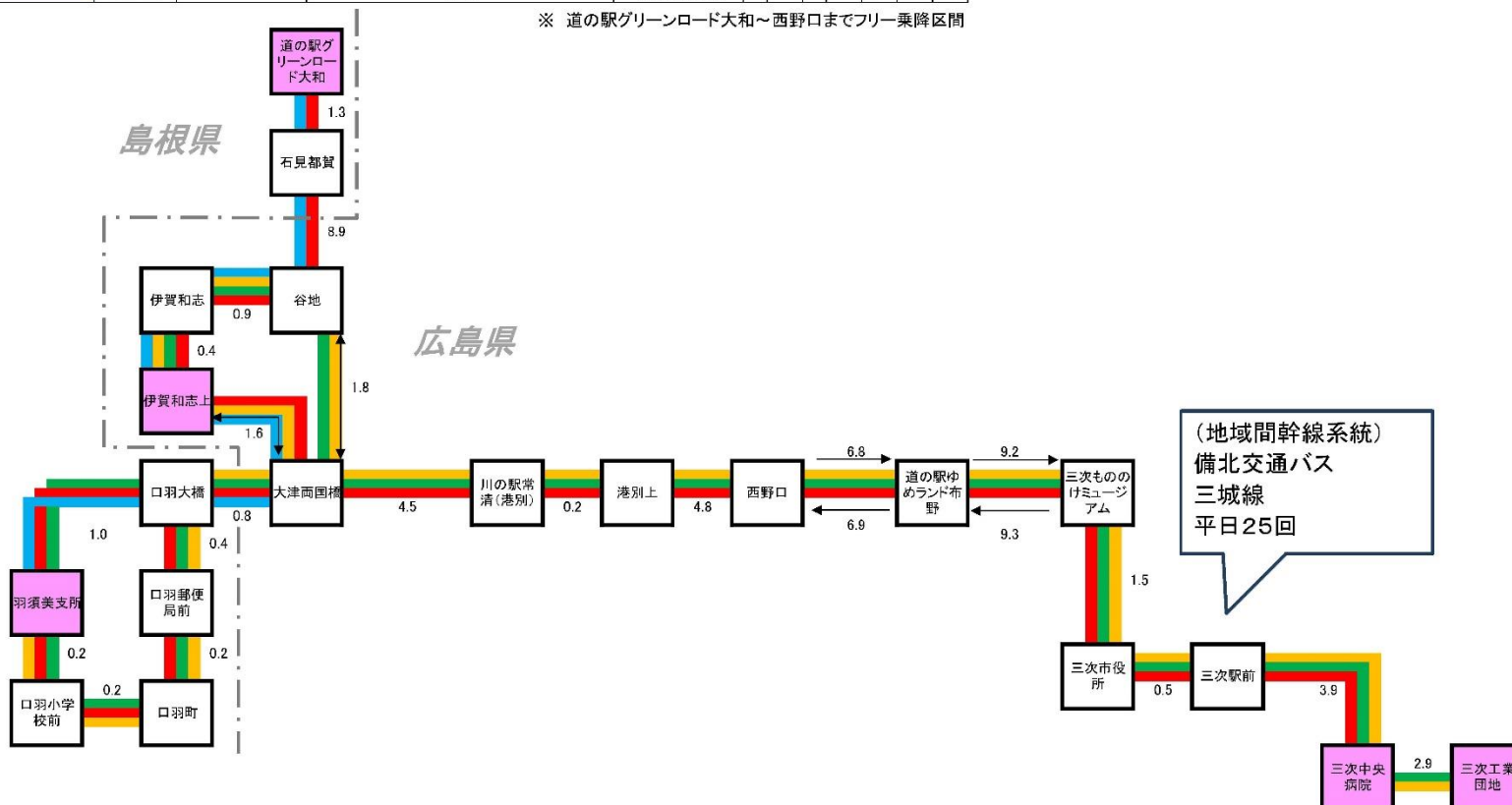
系統名 作木線
運行形態 4条路線・乗合バス型（定期）
運行日・便数 3系統（羽須美支所、道の駅GR大和起点・伊賀和志上起点）あり。
 道の駅グリーンロード大和起点2便、伊賀和志上起点3便（土日祝は1便）※1/1, 1/2を除く
運賃 対キロ区間制（160円～1350円）

運行系統図（作木線）

令和4年4月1日現在

運行経路	系統番号	起点	経由地	終点	系統キロ(km)		運行回数		
					往	復	平日	土曜	休日
	900-32	伊賀和志上	谷地・羽須美支所・布野・三次駅前	三次工業団地	41.0	41.2	3.0	1.0	1.0
	900-34	羽須美支所	伊賀和志上・三次駅前・三次中央病院	三次工業団地	41.0	41.0	0.5	0.0	0.0
	900-42	道の駅グリーンロード大和	伊賀和志・羽須美支所・布野・三次駅前	三次中央病院	48.1	48.3	1.5	2.0	2.0
	900-49	道の駅グリーンロード大和	谷地	羽須美支所	14.9	14.9	0.5	0.0	0.0

※ 道の駅グリーンロード大和～西野口までフリー乗降区間



起終点
 既設停留所

運行系統図 別紙

系統名 川の駅三次線
 運行形態 4条路線、乗合バス型（定期）
 運行日・便数 毎日運行 1日5便
 運賃 対キロ区間制（170円～610円）

運行系統図（川の駅三次線） 平成30年4月1日現在

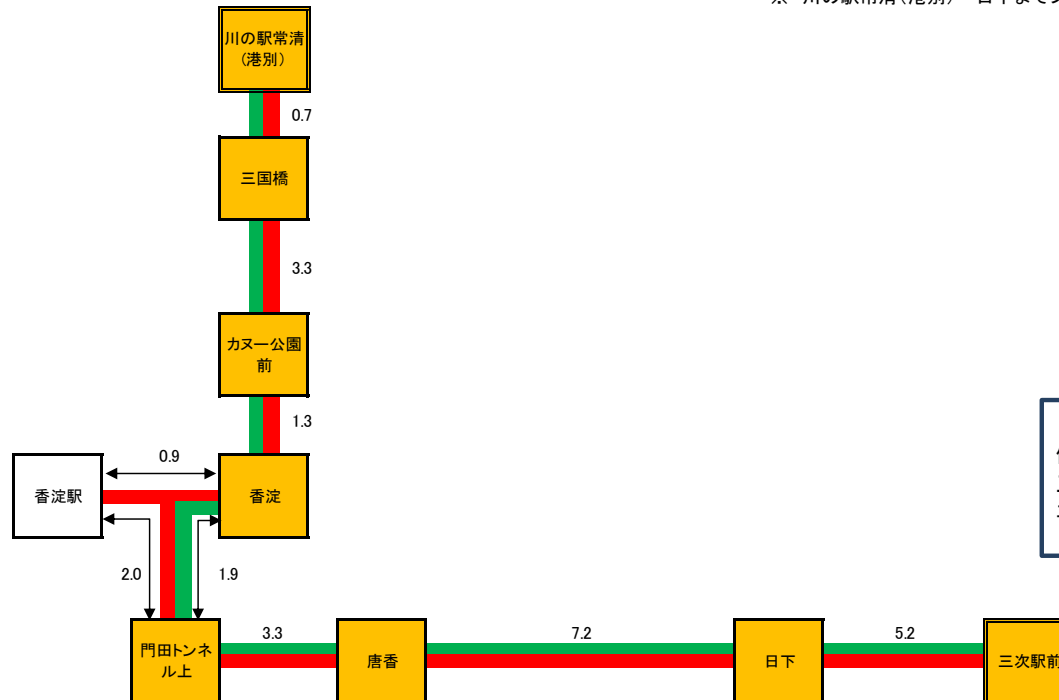
	系統番号	起点	経由地	終点	系統キロ	運行回数		
						平日	土曜	日祝
	999-91	川の駅常清(港別)	香淀駅・(R375)	三次駅前	23.9	2.0	2.0	2.0
	999-92	川の駅常清(港別)	(R375)	三次駅前	22.9	3.0	3.0	3.0

※ 川の駅常清(港別)～日下までフリー乗降区間

起終点

既設停留所

新設停留所



(地域間幹線系統)
 備北交通バス
 三城線
 平日25.5回

運行系統図 別紙

系統名	作木町上地区・中地区・下地区
運行形態	公共交通空白地有償運送・区域デマンド型
運行日・便数	(上地区) 月・金曜日 (中地区) 木・金曜日 (下地区) 火・木曜日 各日3便
運賃	一乗車300円

運行系統図

作木町公共交通空白地有償運送

